

個 人 質 疑 質 問

改革無所属の会 塚 本 進 介 議員
(複合方式)

1 熊本地震の経験を踏まえ、「災害が少ない」に頼らない姫路市へ「防災計画」から「実行する危機管理」への転換－

- (1) 災害発生時に直ちに動ける組織体制と、リーダーシップ・当事者意識の在り方について
- (2) 自助・共助・公助を改めて確認し、互いの力を生かす防災へー要配慮者を取り残さない避難・受け入れ体制と、平時からの個人情報管理について－
- (3) 老朽危険空き家対策の強化について
- (4) 学校避難所としての機能と教育再開を両立する、教育継続体制－災害時に学校が担うべき役割と責任の範囲について－
- (5) 市役所職員が「災害を自分事」として考える取組－「ひめじ防災家族会議の日」について－

(市長、教育長、関係局長)

2 「備える」から「使える」防災へー災害時に機能する避難所・備蓄・支援体制の構築－

- (1) 避難所を、地域全体で避難生活を支えられる防災拠点へー収容可能人数、サービス水準、備蓄など、必要な機能とストックについて－
- (2) 発災直後の72時間を見据え、公共サービスを再考する－在宅避難、車中泊、福祉避難所、帰宅困難者を含め、時間の経過に応じた対応について－
- (3) 防災備品・備蓄、電源、通信を「災害時に使える状態」にする取組－日常から防災を意識できる仕組みと、補助制度の在り方について－
- (4) 民間事業者との協定を、災害時に実際に機能させる取組について

(市長、教育長、関係局長)

3 地域防災を次の世代へーこれまでの地域の力を生かし、新たな担い手をつくる－

- (1) 「避難所を開けられる地域」から、「地域そのものを守り、復旧・復興につなげられる地域」へー自治会・自主防災会が培ってきた地域防災力を生かし、日常の「顔の見える関係」を災害時の支え合いにつなげる取組について－
- (2) 「地域ごとに守る」から、「姫路市全体で支え合う」応援・受援体制へー被災した地域と被災していない地域が、それぞれの人・物・場所・情報を生かして支え合う仕

組みについて－

- (3) 新たな担い手の力を生かし、地域の防災力を高める取組について－子ども・若者、マンション住民、事業者・NPO法人、消防団、ひめじ防災マイスターの力に注目－
(市長、関係局長)

4 姫路城を守る、人を守る－文化財・景観・防災・安全を一体で考える－

- (1) 特別史跡地全体の状態把握と、計画的な保存管理－石垣や姫山樹林を例に、姫路城全体を守ることにについて－
- (2) 姫路にいるすべての人を守るため、姫路らしい防災意識を醸成する取組について
(市長、教育長、関係局長)